

中小企業診断士の SDGs アプローチ法

—With コロナを踏まえて—

HOO経営研究会有志チーム（2022年2月）

伊藤勢津子 加藤慎祐 高橋秀仁 福島 繁

<取り上げた理由と目的>

- * SDGs の広域的な普及状況の現状を調査する
- * 中小企業の参加メリットや重点目標を検討する
- * 中小企業の SDGs の身近な活動事例を学ぶ
- * 中小企業診断士としての SDGs アプローチ法を提言する

<目次>

第1章 （はじめに）SDGs とは

第2章 SDGs 普及の現状

- 1 大企業を中心に多方面で進展中
- 2 SDGs 投資の動き
- 3 各県認証制度の発足と進展
- 4 「ひょうご SDGs センター」創設の動き

第3章 中小企業の SDGs 参加の勧め

- 1 中小企業は参加が求められ活動で発展できる
- 2 中小企業の SDGs 参加メリット
- 3 中小企業の SDGs の重点目標

第4章 コロナ禍による SDGs の影響

- 1 コロナ禍で解決意識が強くなったゴール
- 2 コロナ禍により遅延見込みとなったゴール
- 3 コロナ禍での SDGs ストーリーの再構築

第5章 SDGs の経営への活用法

第6章 中小企業の SDGs の取組み事例

- 1 SDGs の全社的活動例：(チーズ・ケーキ会社)
- 2 SDGs の身近な活動事例
- 3 SDGs の普及活動例

第7章 中小企業診断士としての SDGs アプローチ法

- 1 中小企業診断士が SDGs の理念・制度・目標を習得する
- 2 中小企業診断士が SDGs サポートを展開する。

<参考文献>

以上

第1章（はじめに） SDGs とは

- 1 SDGs は、2015年9月の国連サミットで150を超える加盟国首脳に参加のもと、「持続可能な2030アジェンダ」に掲げられた「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことである。
- 2 SDGs は、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として17のゴールとその課題ごとに設定された169のターゲット（達成基準）から構成されている。
- 3 貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーに至る広範な課題を網羅しており、豊かさを追求しながら地球環境を守り、そして「誰一人取り残さない」ことを強調し、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成することを目標としている。

第2章 SDGs の普及状況

2016年、国において「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」が設置された。その後、諸官庁の啓発・支援のもと大企業、各自治体、経済団体などで活発な活動が進んでいる。2020年12月コロナ禍を踏まえ「SDGsアクションプラン2021」が策定された。次に主だった多方面の活動をあげてみる。

1 大企業を中心とする活発な進展：

（1）ジャパン SDGs アワード

ジャパン SDGs アワードとは：SDGs 達成に向けて優れた取り組みを行っている企業、団体などを外務省が表彰するコンテストである。SDGs のオールジャパンの取組みを推進する目的がある。

<2021年アワードの各企業>

外務省は12月24日、第5回「ジャパン SDGs アワード」の受賞企業・団体を発表した。

内閣総理大臣賞：(株)ユーグレナ

内閣官房長官賞：NPO 法人 eboard、 恩賜財団済生会、

外務大臣賞：(株)HAKKI AFRICA、 OUI Inc.、 非営利法人ジャパンハートがそれぞれ受賞した。

（2）トヨタ自動車の SDGs 宣言

トヨタ自動車は祖業である自動織機メーカー、現在の自動車メーカーに共通する提供価値を捉えなおし、自社の使命を「幸せを量産すること」としている。その実現には「自分以外の誰かの視点に立ち、他人の幸せを願い、行動できる人財」を育てることが重要である。そのため SDGs に本気に取り組むことをトップ・メッセージで宣言している（2020年5月）

2 機関投資家による E S G 投資の動き

E S G 投資は企業の財務情報だけでなく環境 (Environment) 社会 (Social) ガバナンス (Governance) も考えた投資のことである。E S G に取り組んでいる企業は社会的に意義のある事業を行っていると言える。

E S G 投資が注目されている理由は、世界的に「持続可能な社会にしていこう」という動きになっているからである。利益ばかり追い求める企業経営では環境汚染が起きたり、労働環境が悪くなったりで不正が起きる。そのためより良い環境・社会にしていこうために国や政府だけでなく、「機関投資家の投資を通じて企業が ESG にとりくむことが」重要になる。この考え方は 2006 年に国際連合により責任投資原則 (P R I) として提唱されました。今では欧米の機関投資家を中心に世界的に注目されている。日本でも私たちの年金を運用管理する G P I F (年金積立金管理運用独立行政法人) が P R I に署名している。

3 認証制度の設置の動き

(1) 神奈川県 SDGs パートナー制度

SDGs を活用して事業展開している企業や団体を「かながわ SDGs パートナー」として登録する。登録企業には中小企業融資制度や県による支援がある。

(2) 長野県：SDGs 推進企業登録制度

県が SDGs の具体的な取組を提示し、それに応えて取組を始める企業や団体を登録する。登録された企業・団体へは登録マークを提供し、ホームページなどにより公表などで支援する。

(3) 鳥取県：とっとりパートナー制度

「とっとり SDGs 宣言」のもと SDGs に取り組む個人、企業、団体をパートナーとして登録する。パートナー証を発行し SDGs 活動を後押しする。

<とっとり SDGs 推進体制>

①伝道師制度 ②ネットワーク制度 ③若者制度 ④SDGs ローカル指標

(4) 内閣府でも検討中である。

4 「ひょうご SDGs センター」創設の動き

(1) 神戸経済同友会は兵庫県内の企業・行政などによる SDGs の取組を後押しするため、県や神戸市、経済団体、大学などが幅広く参加する官民一体の推進協議会の設置を提言する。2022 年度に同友会内に専門員会を立ち上げ将来は官民連携の「ひょうご SDGs センター」創設を予定している。同センターは SDG s の啓発や研修、企業間のマッチング、行政による施策の進み具合をチェックするなどの機能が期待されている。

(2) 内閣府の「SDG s 未来都市」に認定された県内自治体が三つにとどまっている。(明石市、姫路市、西脇市) 官民が連携してアイデアを出し、認定自治体の増加を目指している。

第3章 中小企業へのSDGs参加の勧め

1 中小企業はSDGsの参加を求められ、活用で発展が期待できる

- (1) SDGsは国際的な目標であるが現状では中小企業の関心はそれほど高くない。“SDGsは大企業レベルの目標であり中小企業には縁遠い目標、中小企業の仕事に直結していない”と認識しているからである。
- (2) ところが直近の傾向としてSDGs特集がテレビで取り上げられ、国の補助金申請の項目に入り、金融機関の融資においても重視されるようになってきている。経営相談窓口でもこのような案件があり中小企業もSDGsの関心が高まりつつある。
- (3) SDGs理念や20年来の討議の流れを理解すれば中小企業の参加も求められている。目標やターゲットを中小企業ベースに具体化すれば大いに活用できる。また中小企業の発展につながることを期待できる。

2 中小企業のSDGs参加のメリット（6項目）

- (1) 17分野の目標があり中小企業でも実行できる活動は広くある。
- (2) 169のターゲットは一般的であり中小企業の日常課題につながっている。
- (3) 現状の身近な活動を取り上げれば活動コストは小さい。
- (4) SDGsを推進している大企業、中堅企業への訴求力が高まる
- (5) 若手人材を採用する場合SDGsが他社との差別化になる
- (6) SDGsに取り組んだ新製品サービスを開発する切り口になる。

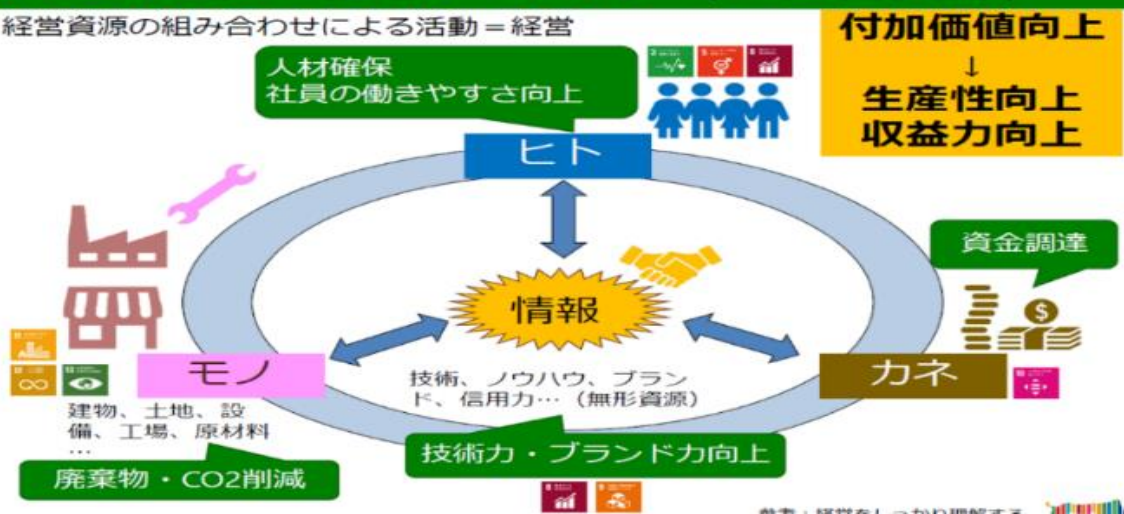
3 中小企業のSDGsの重点目標

中小企業の実際の活動分野、経営力からして17目標はどれもほど遠い高い目標に見える。だが実際に各目標やターゲットを吟味すると①産業基盤としての中小企業こそが取り組むべき課題 ②市場、業種等からして取り組みやすい課題がある。当面の中小企業が取り組めるSDGsの重点目標として次の項目が提言できる。個々の中小企業ベースで検討すれば目標はもっと増えるだろう。



SDGsに取り組みむメリット (×経営資源)

経営資源の組み合わせによる活動=経営



*経営資源のメリット

- 1 人材確保、社員の働きやすさの向上
- 2 廃棄物・CO2 が削減できる
- 3 技術力。ブランド力の向上
- 4 資金調達力のアップ

第4章 コロナ禍によるSDGsへの影響

2015年に採択されたSDGsのそれぞれの社会課題が、コロナ禍というパンデミックによってどのような影響を受けたかについて考察する。

1 コロナ禍で解決意識が強くなったゴール

コロナ禍は全世界的に「ステイホーム」を強いることになり、結果として、人が家から外に出なくなり、労働集約型産業は停止する事態となった。その結果、奇しくも、社会課題解決に光明が差す次のような結果が生まれた。

例① 米国ニューヨークではロックダウンの3日後、ITを活用したオンライン教育を実現している。日本でもオンライン教育が一般化し始めている。これは「4.質の高い教育をみんなに」というゴールに対し、リモート授業など遠隔での教育インフラ整備が前進したと言える。

例② コロナ禍は、デジタル・トランスフォーメーション（DX）を加速させ、リモートワークを推進させ、よりワークライフバランスを実現しやすくなり、「8.働きがいも経済成長も」というゴールを前進させた。

例③ コロナ禍は全世界的に衛生意識を強く芽生えさせるものとなった。具体的には、マスク着用による飛沫感染防止や手洗い・うがいの徹底による感染防止が挙げられる。その意味では、「6.安全なトイレを世界中に」というゴールに対し、総じて衛生観念が底上げされ、早期解決への意識が強くなった。

2 コロナ禍により遅延見込みとなったゴール

他方、コロナ禍で解決が遅延傾向にあるゴールもある。

例① コロナ禍によって大きな影響を受けたのは経済と雇用である。経済活動による資金循環が止まったことで、結果として貧困や飢餓を助長し「1.貧困をなくそう」「2.飢餓をゼロに」において解決遅延が起きている。

例② 加えて「ステイホーム」によって、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）が深刻化していることから「16.平和と公正をすべての人に」というゴールは児童虐待等のリスクがさらに増加し、解決遅延している状況にある。

例③ コロナ禍以前は多くの企業でプラスチック使用禁止の流れが出始めていたが、衛生面を考慮する場合、使い捨て可能なプラスチックの方が感染防止には良いとの認識でややトーンダウンした印象がある。そのため、「12.つくる責任つかう責任」「14.海の豊かさを守ろう」の解決遅延も発生している。

3 コロナ禍でのSDGsストーリーの再構築

コロナ禍で変容した社会課題を見つめなおし、新たな需要と捉えることができれば、コロナ禍を事業機会と捉え、社会に貢献する事業を生み出すこともできる。

（次ページ図表1参照）

図表1 | コロナ禍とSDGs (出所: ユニセフ, UNDP を基に日本総研作成)

SDGs		Covid19の影響	早期解決	変化なし	解決遅延
1	貧国をなくそう 	<ul style="list-style-type: none"> 経済発展の停滞 			●
2	飢餓をゼロに 	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーン途絶や禁輸措置の増加 経済的食糧アクセスの悪化 			●
3	全ての人に健康と福祉を 	<ul style="list-style-type: none"> Covid19による健康被害 孤独化、非接触化によるメンタルへの悪影響 			●
4	質の高い教育をみんなに 	<ul style="list-style-type: none"> リモート授業など遠隔での教育 インフラの整備 ロックダウンによる短期的な教育格差の発生 	●		
5	ジェンダー平等を実現しよう 	<ul style="list-style-type: none"> 働き方の自由度向上 家庭内暴力の増加 		●	
6	安全な水とトイレを世界中に 	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止のため、衛生観念が世界に定着 	●		
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	<ul style="list-style-type: none"> 活動停滞に伴う電力需要の減少 	●		
8	働きがいも経済成長も 	<ul style="list-style-type: none"> 働き方の自由度向上 失業率の増加 		●	
9	産業と技術革新の基盤をつくろう 	<ul style="list-style-type: none"> 求められるレジリエントさの変化 		●	
10	人と国の不平等をなくそう 	<ul style="list-style-type: none"> 所得成長率への悪影響 移民など人の流動性の低下 途上国での感染拡大 			●
11	住み続けられるまちづくりを 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策のための空間利用の変化がもたらす、「望ましい」都市や建物構造の変化 		●	
12	つくる責任 つかう責任 	<ul style="list-style-type: none"> 食品サプライチェーン途絶の懸念 「使い捨て」が嗜好される 			●
13	気候変動に具体的な対策を 	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動の停滞によるGHG排出量の減少 	●		
14	海の豊かさを守ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトルなど、使い捨て前提の容器等が嗜好される 出漁減、飲食店からの海産物需要減による海産資源の回復 			●
15	陸の豊かさも守ろう 	<ul style="list-style-type: none"> 人間の活動停滞に伴う自然環境の回復 		●	
16	平和と公正をすべての人に 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭内暴力や子どもの虐待の増加懸念 			●
17	パートナーシップで目標を達成しよう 	<ul style="list-style-type: none"> 世界的な経済停滞によるODA投資や国際協力等の減少 政治的な一國主義の傾向? 		●	

第5章 SDGs の経営への活用法

ステップ1 SDGs を理解する：



- ①2015年国連サミット掲示のSDGs理念とその背景を勉強する。
- ②SDGsの目標やターゲットを理解する
- ③国内外で普及するSDGsの進展を把握する。

ステップ2 優先課題を決定する：



自社を現状分析し自社の強み・弱点から優先課題を明確にする

ステップ3 目標を設定する



優先課題にあった目標・ターゲットを設定する。

ステップ4 経営へ統合する



- ①経営方針にそって目標を経営計画に組み入れる
- ②目標管理、PDCAを実践する。

ステップ5 報告とコミュニケーションを行う：

社内への報告やPRを実施する。
同時に外部へ情報発信をする。

第6章 中小企業のSDGsの取り組み事例

1 SDGsの全社的な活動事例—株式会社 seed—

チーズ・ケーキ会社：大阪府泉南郡・従業員17人・売上2億円

(1) 経営ビジョンと社員スピリッツ

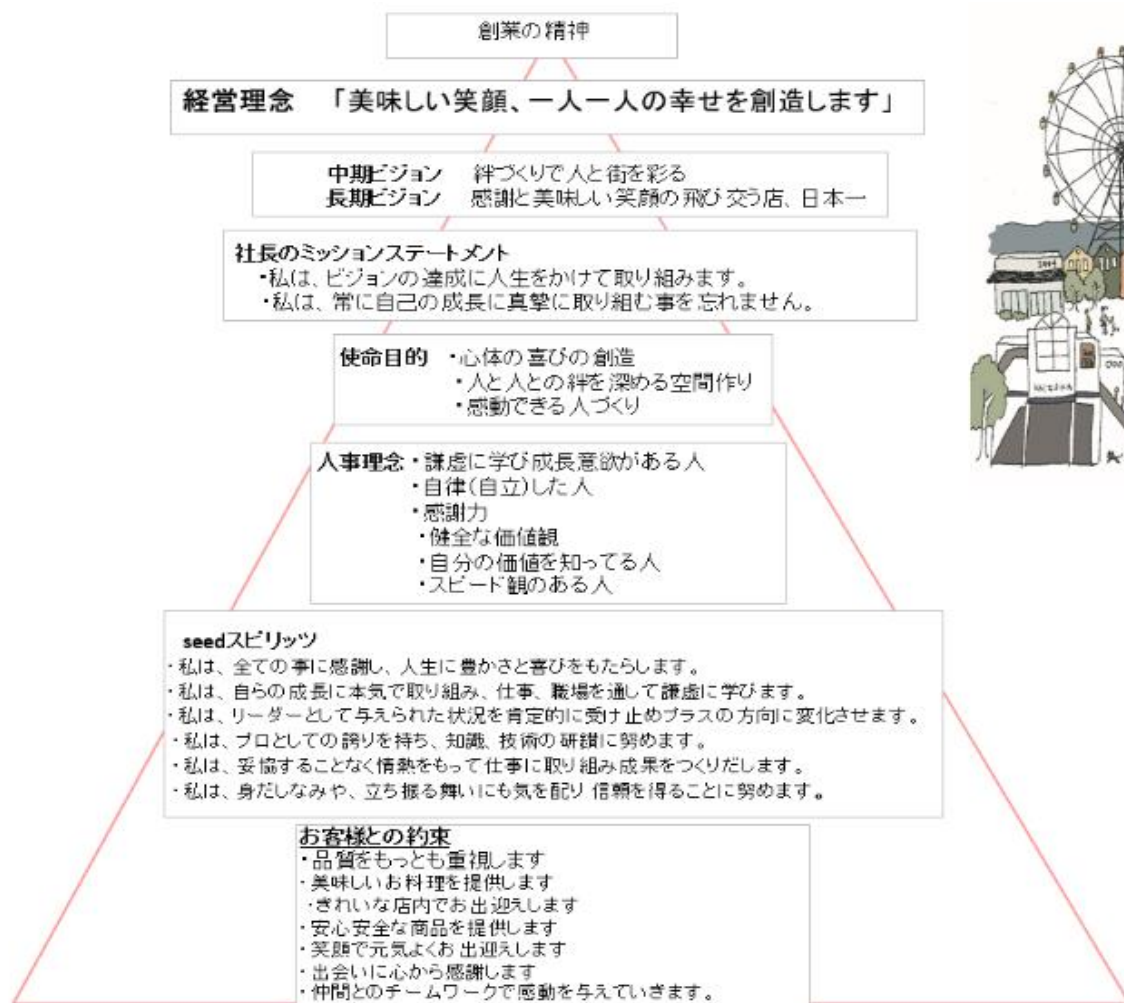
経営ビジョン『私たちはエシカルスイーツで人と地球に優しい未来をつくる』

※エシカルライフとは「私にいい」「地球にいい」とつながるライフスタイル。
人、自然、地球にやさしい暮らし方である。

従業員へ理念の浸透

毎朝の朝礼および毎月SDGsの勉強会を実施し、ビジョンを従業員に浸透させている。
会社をあげて「SDGs」の趣旨に賛同する様々な取り組みをしてきた。

・店舗朝礼(13徳目)・就労前1時間理念研修 ・新入社員研修 ・全体理念研修



(2) SDGsの取り組み

① 誰もが安心して働くことができ、活躍できる職場環境

一人一人の幸せを創造するためには、創り手である私たちが幸せでなければならないと考えている。働く皆が幸せであるため、家庭環境に配慮し職場環境を整える。教育機関へのインターンシップの受入れや支援学校の職業体験の受入れも実施している。



② 女性が活躍し輝く会社づくり

当社は、90%以上が女性社員である。一人一人の家庭環境に寄り添い、結婚、出産後も復帰できる働き方を相談しながら活躍できる環境をつくっている。子供を同伴できる事務所の設置、在宅勤務、Web会議での参加など工夫をこらし女性が働きやすい環境作りを行っている。



③ 食の大切さを学べる料理教室

食を通して心も身体も幸せになってもらいたいと考えている。seedでは、親子で「作る楽しさ、食べる喜び」を体験する食育「親子体験教室」を実施している。



④ ファーム・ツアー・テーブル、オーガニックへの取り組み

地元で安全な野菜・果物を生産している農家さんを応援する。作物を直接買い付けて使用したり、廃棄になる作物を加工して販売したり、農作業のお手伝いをしている。



【オーガニック食材】

国産クリームチーズ、国産有機米の米粉、国産有機小麦粉等

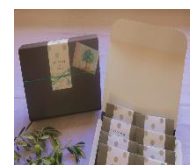
⑤ 海洋プラスチックごみを減らそう

世界全体で問題となっているプラスチックごみ問題の解決の為に私たちが出来ることとして、紙ストロー、バイオPETカップ、リユースできるギフトパッケージ、エコバックなどを取り入れ少しでもプラスチックごみを減らす努力をしている。



【エシカルパッケージ】

パッケージに使用しているのは、炭でエコする「Sumideco Paper」で、これは梅の種を炭化したもので、加工業者からでる産業廃棄物を活用している。



梅炭再生紙のパッケージ

(3) その他

- ① エシカルスイーツでクラウドファンディングに挑戦
- ② エシカルスイーツを商標登録
- ③ 農林水産省 青果物健康推進協会との連携
廃棄する果物を引き取り、エシカルスイーツを作成
- ④ BtoC 地域密着のドミナント戦略



BtoB 全国のオーガニック市場へ



2 SDGs の身近かな活動事例

(1) バイオマス発電のプラント用配管部品の製造 (配管部品製造業からの参入)

・バイオマス発電については、SDG's17 項目中、下記2つの観点から、今後社会的な要請が高まると予測される。

- ① 「目標7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに」の観点：



(7.2)2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
→化石燃料を使わない発電の推進。

- ② 「目標12 つくる責任 つかう責任」の観点：



(12.5)2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
→廃棄される木材チップ等を使った発電により、廃棄物の発生を削減。

(2) 就労支援事業、障害者ショートステイ事業 (接骨院からの参入)

・「就労支援事業」により、これまで働く場が少なかった障害者が経済活動に参画する支援を行う。また、「ショートステイ事業」により、障害介護の家族負担を軽減し、間接的に経済活動へ寄与する。

- ⑧働きがいも、経済成長も



(8.5)2030年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する。

(8.6)2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。

⑩人や国の不平等をなくそう



(10.2) 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。

(3) 自動車解体、中古部品販売業（自動車整備業からの参入）

⑫つくる責任、つかう責任



(12.5) 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

→自動車部品のリサイクルにより、廃棄物の発生を削減。

(4) プラスチック材料の再利用を含めた射出成形と金型製作（金型を内製化している射出成型業者）

⑫つくる責任、つかう責任



(12.5) 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

→プラスチック射出成形で生じる材料の再利用、および内製化している。金型の設計・製造精度向上によりプラスチック材料のロスを最小限化することで、廃棄物の発生を削減。

(5) パンメーカーのフードロス

⑫「つくる責任 つかう責任」



(12.5) 「2030年までに・・・食料の廃棄を半減させ、生産・サプライチェーンにおける食料の損失を半減させる」

A社（売上1億5千万円：2店舗）

競合店が多い地域であるが焼きたて、美味しさに力をいれ好繁盛店を維持している。当店の他店舗との最もの違いは「売りじまい」

毎日適品、適量の品ぞろえ、完売を目標にする。夕方 商品が完売になれば閉店としている」

(6) 海外からの移住者（特に子供達）への日本語教育等の支援活動

④ 「質の高い教育をみんなに」



(4.1) 「2030年までにすべての子どもが男女の区別なく、……、公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする」

(NPO 法人 B 社（参加者約 60 名）

日本語を母国語としない人たちと市民とが協力して日本語を学ぶ場として発足する。事業内容；日本語教育、学校の勉強支援、料理教室、地域との交流

3 SDGs の普及活動事例

企業名：株式会社 サカイホールディングス

所在地：名古屋市 設立：1991 年

売上 150 億 従業員 470 名

(1) SDGs 取り組みの理念

- * 誰ひとり取り残さず日常に浸透させる
- * 子供の目線で地球の未来を知って欲しい

(2) SDGs の活動

- * VTUBER（SDGs 伝道師ノアちゃん）による情報発信
- * VTUBER とは YouTube を中心とした動画配信キャラクター！
- * 各種機関への啓蒙発信キャラクターとして情報発信



(3) 今後のビジネス指向について

- * ノアを使った、産官学との連携で業務拡大を目指す。
- * これまで、関わりに低かった公的な機関との関係作り
- * 自社のブランド力の向上

第7章 中小企業診断士のSDGsアプローチ法

1 第1ステップ

中小企業診断士自身がSDGsの理念・制度・目標等を習得する。
中小企業診断士SDGsプロジェクト（又は研究会）を設置する



2 第2ステップ

SDGs紹介・支援活動を展開する（紹介・支援センターの設置）

重点目標は次とする。



(1) SDGsの啓蒙と先進事例紹介 ⇒⇒⇒ 勉強会・セミナーの実施



(2) 県内企業・各団体のSDGs取組状況を調査する ⇒⇒⇒ 訪問調査
又はアンケート



(3) 各方面への普及・PR活動を強化する ⇒⇒⇒ 広報誌やWeb等を通じて



(4) SDGs展開を援助・支援する ⇒⇒⇒ 特定企業との連携または契約



(5) 認証取得と報告・コミュニケーション ⇒⇒⇒ 各団体との連携活動

(1)～(5)をスパイラルアップし普及・進展させる。

<参考文献>

第1章 [http 「SDGs×食品産業 農林水産省」](#)

第4章 [http 「ユニセフ,UNDPを基に日本総研作成」](#)

第5章 [http 「日経BPコンサルティング：SDGsデザインセンター」](#)

以上